

宝塚景観まちあるきガイドマップ2020

Takarazuka City Landscape Town Walking Map 2020



■宝塚市は大きく2つの地域に区分されています。一つは南部市街地、もう一つは北部（西谷）地区です。市域面積は約100km²（10,000ha）で、西谷地区がその6割を占めます。南部市街地は4,000haです。

■南部市街地は北方向に中山連山が横たわり、西方向には六甲山系の山並みが位置しています。L型に囲まれた緩い山麓と平地部に私たちは住んでいます。

その中央部を武庫川が流れ、支流には逆瀬川や仁川、天王寺川、天神川、大堀川、支多々川、一後川などが流れています。

したがって、市街地から目を北や西に向けると街並みの背景には山並みを見ることができます。

これが宝塚の景観の特徴です。言わば宝塚で住み、働く人々が役者だとすると背景の山並みは舞台背景に例えることができます。また、その景観構造が素晴らしく、市内の主な地点（視点場と言います）から見上げる山の角度（仰角と言います）が5°～10°以内とたいへん心地よい条件にあります。さらに取り囲む山々がL型に配置され、それぞれの距離が遠くないため山麓の住宅地から街並みを見合うことができます。

山麓の中腹からは市街地の街並みを見下ろすこともでき、この景観的特質は他市に無い貴重な特性です。

このような宝塚市南部市街地の固有性を今後の都市づくりに活かすことが、ライフスタイルを豊かにし、かつ魅力と誇りある都市づくりにつながると考えます。

■一方、西谷地区は南部市街地から車で20分～30分で行くことができ、一山越えると豊かな自然・田園環境に出会えます。西谷の盆地地形と周りの山並みの関係も見上げる角度は5°～10°以内で静かでゆったりした”癒し”が体感できます。

しかし、市域面積の6割の所に全市人口約23万人のうち、約1%の2,400人しか居住していません。

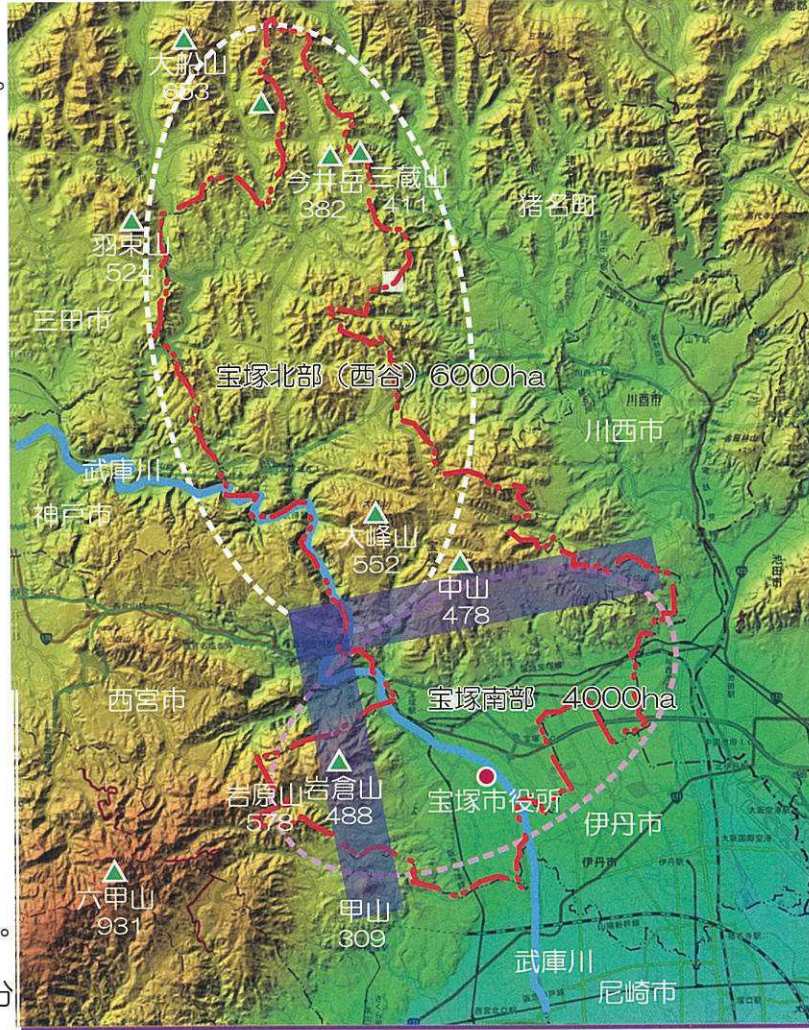
近年とくに過疎化が課題となり、早急な対応策が必要な状況です。

さらに大半が武庫川流域に含まれ、その10%を西谷が占めるため、西谷の里山や田畑、集落などが荒廃すると保水力が低減し、結果として武庫川の洪水危険度が増大します。また、地区面積約6,000haの約2割は県有地として買収されていて、環境保全機能の役割を果たしていますが、その一部でも地区の活性化のための土地利用や機能設置が望まれます。

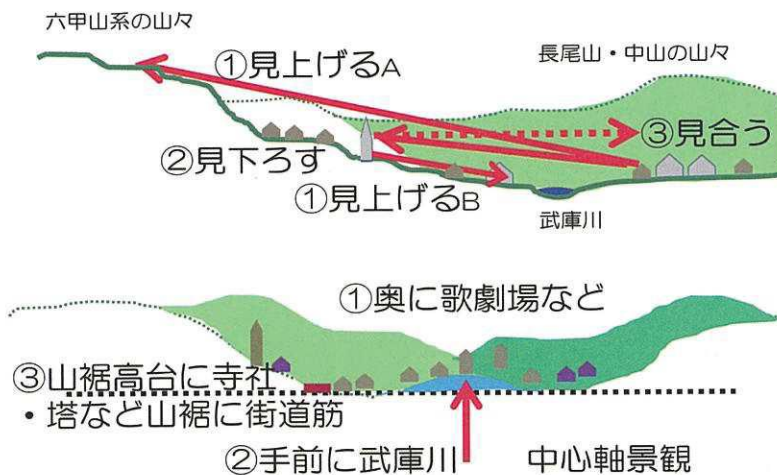
■宝塚景観まちあるき会では3年間にわたり宝塚市内を歩き、調査することにより「宝塚の景観的特質」を把握し、都市づくりへ活用することの必要性、重要な景観的資源の保全、個別対応だけでなくゾーンとして対応を図ることの重要性などを提案します。また西谷地区を宝塚活性化の最重要地区として位置づけ、多くの市民や県民が交流し付加価値を共有できる得難い場として、自然環境、地区の平穏な生活保全、農業環境維持などを大前提に、多彩な市民力を活用し多様な活性化策が生まれることを望みます。

このような思いのもと、作成しましたガイドマップを、街歩き、体験、スケッチや写真撮影、健康維持、地域学習などさまざまに活用いただくことを期待しています。

”景観”だけでなく、宝塚が豊かで誇りある都市に育つよう諸団体、行政、市民が協働し、実践的取り組みをしていくことを期待しています。



宝塚はたぐいまれな3D立体景観都市



人をつなぎ、魅たい・魅せたい”宝塚”づくり

